

高津のまちづくりを考える キラリたかつニュース 13

2003年9月1日発行：高津区まちづくり協議会

誰もが住んでよかったと思えるまちづくりをめざして

2期4年、まちづくりに熱心に取り組む早いもので、高津区まちづくり協議会が発足してから、2期4年が過ぎようとしています。この間、委員の皆様方には、大変ご苦勞をおかけし、また、熱心に取り組んでいただきましたことに、心から感謝を申し上げます。

振り返ってみますと、区民の念願でありました「高津区市民健康の森」を、委員の皆様の大な努力により実現させることができ、高津区の将来像を描くまちづくりビジョン「歩きたくなる高津」も、多くの区民の皆様のご賛同を得て、8月末をもって完成する運びとなっております。

都市マスタープランで区の方針図を検討

このほか、昨年12月からは、都市計画マスタープラン高津区構想部会がスタートし、現在、「みち」、「みず・みどり」、「まち」の3つのグループに分かれて、新たなまちづくりの方針図を作成するための作業が活発に進められています。

よいまちに向けてパートナーシップを深める
当協議会においては、今後も、区民が求めていることは何かを把握し、それを実現するためにはどういう課題を解決していかなければならないか、区民と行政が一体となった「パートナーシップ」によって検討を深め、よりよいまち、誰もが住んでよかったと思えるまちづくりを推進していきたいと考えております。

皆様方には、より一層のご協力をお願いいたします。

高津区まちづくり協議会委員長

瀧村 治雄

第2期の2年間でこんな活動をしました

高津まちづくりビジョン委員会

「歩きたくなる高津」完成

平成13年11月から1年半以上にわたり、議論、検討を活発に行なってきた、まちづくりビジョンの策定も、いよいよ完成の運びとなりました。

ビジョンは、今後の10年間の高津区における市民と行政の協働によるまちづくり活動の方針や、具体的な活動内容について、取りまとめたものです。

さまざまな史跡や社寺、緑地や水辺、坂道などの風景のよい場所、にぎやかな商店街など、高津区内の至る所を、歩いて巡って楽しめるような街にしたいという思いを込めて、タイトルを「歩きたくなる高津」としました。

また、10年前に策定した区づくり白書「キラリたかつ」以後のまちづくり活動についての検証を行い、今回は、5つの具体的なプロジェクトを打ち出し、実現性を重視したビジョンとしました。

ビジョンの5つのプロジェクト

1. 歩きたくなる高津の道をつくる
2. みんなが行きたい大山街道
3. 残そう、創ろう、高津の緑
4. 取り戻そう、水のある暮らし
5. 耕そう、地域コミュニティ

まちづくり協議会が9月から第3期を迎え、今後は、策定したビジョンを具体的な活動に展開していく段階となります。5つのプロジェクトを実現していくには、より多くの方々の御協力が必要です。皆様にも是非まちづくり協議会の活動に御参加いただき、「歩きたくなる高津」の魅力づくりを一緒に進めていきましょう。

「都市計画マスタープラン高津区構想 区民提案」策定

高津区の都市計画の基本的な方針づくりを目的として、平成14年12月からスタートしました。高津区では、ビジョンの一部会として、ビジョンの策定と密接な関連を持たせて、引き続きマスタープランの策定を行なっているのが特徴です。

委員が区内を歩いて写真を集めた「ご近所情報地図」を基に、地域別のグループに分かれて地元の農家、工業会、商店街の方々へのヒアリングを進めています。

若者部会が活発な活動を展開

都市計画マスタープランづくりにおいて、若者の意見を取り入れたいということから、20代を中心として活動をはじめました。

4月には、溝口駅キラリデッキにて、「バンブーフESTA」と題して、高津の街の写真展示や、まちづくりに関するアンケート調査、竹楽器コンサートをを行いました。

その第2段として、7月の高津区民祭では、大山街道岩崎酒店横の路地をお借りして、区内採れたてのジャガイモ、キュウリを販売。その場でゆでた枝豆は、おいしく歯ごたえがあり、飛ぶように売れました。また、高津の風景写真のオリジナル絵葉書販売や子供向けのゲームコーナーで路地の賑わいが出ました。さらに「ものづくり共和国」のロボット実演販売や「高津区市民健康の森を育てる会」の竹とんぼ、ブンゴマの製作実演・配布など、区内の特徴的な活動を集めたコーナーとなりました。（委員 長川崎泰之）



区民祭に出店し、大人気だった都市マス若者部会

高津区市民健康の森を育てる会

会の活動について

代長 鈴木穆

高津区の緑の占有率は、30%を割り込んで25%になりました。私達は危機感を強めて、里山環境を将来にわたり保全・育成し、自然環境と人との共生を図り、管理と運営を行って来ました。

また森の湿地帯を掘削し、沢をつくり、孵化した蛍を飼育し、5月末飛行を確認しました。実に70年ぶりに高津区で蛍が飛び、多くの方が鑑賞されました。来年も蛍を見られるように、里山保全にも努めてまいります。



70年ぶりに、蛍が飛んだ！

第2期の活動を振り返ると……

会は矢継ぎ早に変身し実施段階にまで進みました。

H12.6～H14.3. 「市民健康の森推進委員会」

H14.4.～H14.11. 「同管理運営組織準備会」

H14.11.～ 「市民健康の森を育てる会」

第2期の主な活動結果は次のとおりです。

[定常活動]

・委員会等約30回、現地作業等約50回。

[自主活動 (H14.12.～)]

・約40回、延べ700名超。

[主な成果]

・「推進計画」市民発表会と提言書の提出。

平成14年3月に推進委員会の成果の集約として、高津区長に提言書が提出されました。この提言の内容が、その後の活動の規範・基準となっています。

・現地（丘、森両地区とも）の整備が進む。

月2回の定常活動に加え、月平均4回（毎週木曜日）の自主活動で、道路、散策路、畑、花

壇などが見違えるように整備されました。

[主なイベント]

・「竹炭焼き教室」開催（H14.1.～2.：3回）

初めての公募イベントで、30名超の熱心な参加者を得て大成功。来年も実施する予定。

・「蛍の飼育・飛翔」に成功（H14.4.～H15.6.）

小田原の田村さんご指導のもと、水路づくりから成虫の飛翔まで、蛍班の努力が実り、「幽玄の光の舞」が実現しました。沢山の人々が観に来られ、新聞にも報道されました。

[主な対外活動]

この期、外部組織と関わり合った活動は15回以上に及びました。それらは、同様な活動組織との交流会、地域イベントへの参加、地域保育・教育機関との交流、まち協内部の他委員会への協力、などの形で行われました。

今後の予定…参加者大歓迎！

- ・定常活動：(毎月)第2土曜、第4日曜
- ・自主活動：(毎週)木曜日
- ・主なイベント：花火の夕べ(8/16)、収穫祭(10/26)、竹炭焼き教室(H16年2月、3回)など



竹炭焼きもだいが熟練してきた

キラリたかつホームページ委員会

キラリたかつホームページ委員会の活動は、基本的には、パートナーシップによる高津区まちづくり運動関連のコミュニケーション活性化を目指して始まりました。

具体的には、高津区まちづくり協議会および協議会傘下の各委員会・部会のページを設け、活

動内容の紹介、報告、そして一般への呼びかけ、PRを行ってきました。

最大の特長は、ホームページの制作・更新管理などすべてを区民の手で行ったことです。

第2期の活動

一言で言えば草創期、つまり基盤づくりの期間であった第1期(H12.6.～H13.8.)に対して、第2期は、ホームページ制作の実績を蓄積して発展の基礎固めをした期間といえるでしょう。

すなわち、新たな参加者を加えて体制を固め、より高い技術を駆使してページ制作を行いました。

その結果、内容の充実、季節ごとの更新による更新期間の短縮化・定期化を実現する一方、各委員会・部会の活動予定を外部の人でも参照できるカレンダーを新設し、コミュニケーション機能の一步前進を試みました。

また内部的には、ホームページ作成ガイドラインを制定し、さらにメンバーの制作スキル向上のための勉強会を開催しました。

第2期発足の平成13年9月以降、平成15年8月までの2年間に、委員会は29回開催され、更新は7回行われました。

とくに後半は、「区民の活動」「まちづくり協議会」のそれぞれのトップページは更新のたびに装いを変え、季節感を表現するようになりました。またスキルアップ勉強会は平成15年1月から開始し7回を数えました。

内容としては、インターネット関連、ホームページ作成に使われる言語HTML、画像処理関連、画像のアニメーション化など多岐にわたりました。

今後の課題

今後解決すべき課題は沢山あります。

われわれ委員自身の問題としては、技術向上、若年層の実働メンバーの増員、確実な原稿収集が挙げられます。

また体制的な問題としては、協議会内での当委員会の位置づけ、ウェブ作成担当の見直し、更新掲載の迅速化…などです。

私達は、これらのバリアーを一つ一つ克服して、さらに優れたホームページをつくってゆきたいと思っています。関心をお持ちの方々のご参加をお待ちしています。(部会長荻原誠)



高津まちづくり協議会のフロントページ

高津の福祉を考える会

第一期には地域のボランティア団体やグループを調査し老人いこいの家や特別擁護老人ホームの見学また、川崎市の「わたしの町のすこやか活動支援事業」に伴い地域の活動団体へ呼び掛け「すこやか活動支援勉強会」を開催しました。一期の問題点としては自立高齢者問題だけに課題を絞ったことにありました。

第二期は前期に引き続き「すこやか活動支援の勉強会第二回」を開催するとともに課題を自立高齢者だけに絞らずボランティア活動の勉強として「武蔵野コミュニティセンター」の見学、地域団体に呼びかけての川崎市の「地域福祉計画策定」勉強会、「成年後見制度」「地域福祉権利擁護事業」などの勉強会を企画実行してまいりました。

またバリアフリー問題として「溝口周辺地区基本構想策定検討委員会」へ参加をしました。これらの活動を通してまた勉強会から発生する疑問や意見等を委員間で話し合うことができたと思います。(部会長藤村千賀子)

いきいきコミュニケーション研究部会

今期は6名のメンバーでスタートしました。

(1) よいまちについて

毎月1回の割で開催しました。「よいまち」とは?という点から、まちとしてどんな機能(役割)を持てばよいか?を検討してまいりました。今年の7月で15回の研究部会を開催、熱心に議論した結果、11機能(役割)を決めました。

すなわち、1 よい歴史・文化・芸術、2 よい福

祉、3 よい環境、4 よりよい安全、5 よい商店街、6 よいまちなみ、7 よい通り(道)、8 よいコミュニティ、9 ひとつづくり(教育)、10 よい産業、11 よい国際性です。それぞれの機能(役割)を各委員が分担し深く掘り下げてきました。成果物としてまとめを作成し、近く報告書とします。

(2) まちづくり条例について

2月13日川崎市総合企画局政策部・伊藤和良さんを講師に招き、まちづくり条例について勉強会を開催しました。伊藤さんからは 他市の事例 川崎市の条例関係等今後の動きについて、説明を受け大変勉強になりました。(部会長高松昭)



川崎市や他市のまちづくり条例を学んだ

音楽のまち高津研究部会

心に潤いのあるまちとして、音楽があふれるまちづくりを目指して研究部会を立ち上げました。高津区内に存在する音楽大学を生かすとともに、市民の音楽活動がより活発なものとなるよう支援システムを構築することを目指し、市民とのパートナーシップで活動を進められるよう企画しました。

第2期の研究部会は、3テーマ(プロやアマチュアによるボランティア演奏のネットワークづくり、溝口駅前のキラリデッキでのコンサート、新しいダンスや合唱組曲などの創作・演奏等)を取り上げ、「音楽のまち・高津」ネットワークの企画書を作成し提案しました。(部会長鈴木忠能)

【問合せ・連絡先】

高津区まちづくり協議会事務局
(高津区政推進課まちづくり推進係)
Tel : 044-861-3133 Fax : 044-861-3103
e-mail : 67kusei@city.kawasaki.jp
<http://www.city.kawasaki.jp/67/67kusei/home/kumin/kumin.htm>